

ジブリパーク整備の概要・基本合意書の締結について

2019年5月

ジブリパークの整備について

ジブリパーク整備の基本方針

ジブリパークを整備するにあたり、次のとおり基本方針をとりまとめました。

■愛知万博の理念と成果の継承

2005年に開催された愛知万博は、愛・地球博記念公園をメイン会場に「自然の叡智」をテーマとして開催され、人、いきもの、地球に対する「愛」を我々に示しました。この愛知万博の理念と成果を、愛知万博が行われたこの公園で継承していくことが愛知県の責務であると考えます。

ジブリパークで表現されるスタジオジブリの作品に通底するものの一つには、まさに、人、いきもの、地球に対する「愛」が含まれており、愛知万博の理念と合致しています。

この公園においてスタジオジブリ作品の世界観をさらに配置することで、愛知万博の理念と成果を将来にわたって継承していきます。

■スタジオジブリ作品を伝え残し唯一無二の価値を付与

国内外で多くの人に親しまれてきたスタジオジブリ作品の世界観を表現し、本公園においてその作品世界を伝え残していく形で、ジブリパークを都市公園内の公園施設として整備します。そして、都市公園としての機能とジブリパークが共存し、かつ有機的に結びつくことで相乗効果が生まれ、世界に類を見ない唯一無二の価値を有する都市公園を目指します。

■多様な利用者がともに楽しめる公園づくり

公園本来の機能である、今を生きる人々にひと時の楽しみと安らぎを提供することを目的とし、来る「リニア大交流圏」時代を展望して、子どもから大人まで、愛知県のみならず、広く国内外からの多くの来園者に楽しんでもらえる公園にします。

■歴史的成り立ちに配慮し将来にわたって愛され続ける公園づくり

愛知青少年公園、愛知万博メイン会場、愛・地球博記念公園と姿を変えながら、長年にわたって県民を始め多くの利用者に親しまれてきたこの地で、公園の歴史的成り立ちや県民・利用者の思いに配慮しつつジブリパークを整備することで、将来の長きにわたっても、愛知県民を始めとした多くの人たちに愛され、後世に引き継がれていく公園にします。

■公園内の既存施設・活動との共存

愛・地球博記念公園の都市公園としての機能や自然環境を損なうことなく、本公園の未供用地や既存施設等を有効活用し、公園内に根付いている様々な活動と共存する形で整備を行います。

ジブリパーク施設の管理運営手法

- 管理運営手法については、指定管理者制度や設置管理許可制度を活用し、民間事業者等を主体とした管理運営のあり方を検討してきましたが、スタジオジブリの企画監修を受け、ジブリパークの基本理念・ジブリ作品の世界観に沿った運営が行われる必要があります。
- このため、ジブリ作品について理解が深く、親和性の高い民間事業者に管理運営を託すことを模索した結果、2015年に開催された「第32回全国都市緑化あいちフェア」において「ジブリの大博覧会」、「思い出のマーニー×種田陽平展」を開催した実績を有するほか、中京地区において各種のスタジオジブリ関連の展覧会を開催している中日新聞社が、スタジオジブリと共同で管理運営会社を設立する運びとなりました。
- このたび、愛知県とスタジオジブリ、中日新聞社は三者で基本合意書を締結し、今後、ジブリパークの基本理念・ジブリ作品の世界観を反映した具体的な管理運営手法について、三者で検討を進めていきます。

ジブリパークのこれまでの経緯

これまでの「ジブリパーク」を整備する構想についての検討経緯をまとめますと以下のとおりです。

(経緯)

- ・2017年 5月31日 愛知万博の理念を次世代へ継承するため、愛・地球博記念公園に「ジブリパーク」を整備するという構想について、スタジオジブリと合意
- ・2017年 6月 6月県議会での補正予算により、愛・地球博記念公園内の現況調査などに着手
- ・2017年11月 1日 「ジブリパーク構想推進室」を設置
- ・2018年 3月30日 スタジオジブリと確認書を締結
- ・2018年 4月25日 基本デザインの発表
- ・2018年12月21日 整備構想の概要の発表
- ・2019年 5月31日 **基本合意書(三者の合意)締結**

(今後の予定 中日新聞社がスタジオジブリと共同で、ジブリパークの管理運営を行うことを目的とする運営会社を設立)

ジブリパークのエリア配置

愛・地球博記念公園



ジブリパークの施設整備スケジュール

- ・青春の丘エリア、ジブリの大倉庫エリア、どんどこ森エリアは、2022年秋の開業を目指します。
- ・もののけの里エリア、魔女の谷エリアは、上記の開業から概ね1年後の開業を目指します。

エリア名	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
青春の丘 ジブリ大倉庫 どんどこ森	基本構想 基本設計	実施設計	工事			開業 概ね1年後
もののけの里 魔女の谷		実施設計	工事			開業

エリアの整備イメージ

青春の丘エリア

～来園者を迎え、導くジブリパークの象徴～

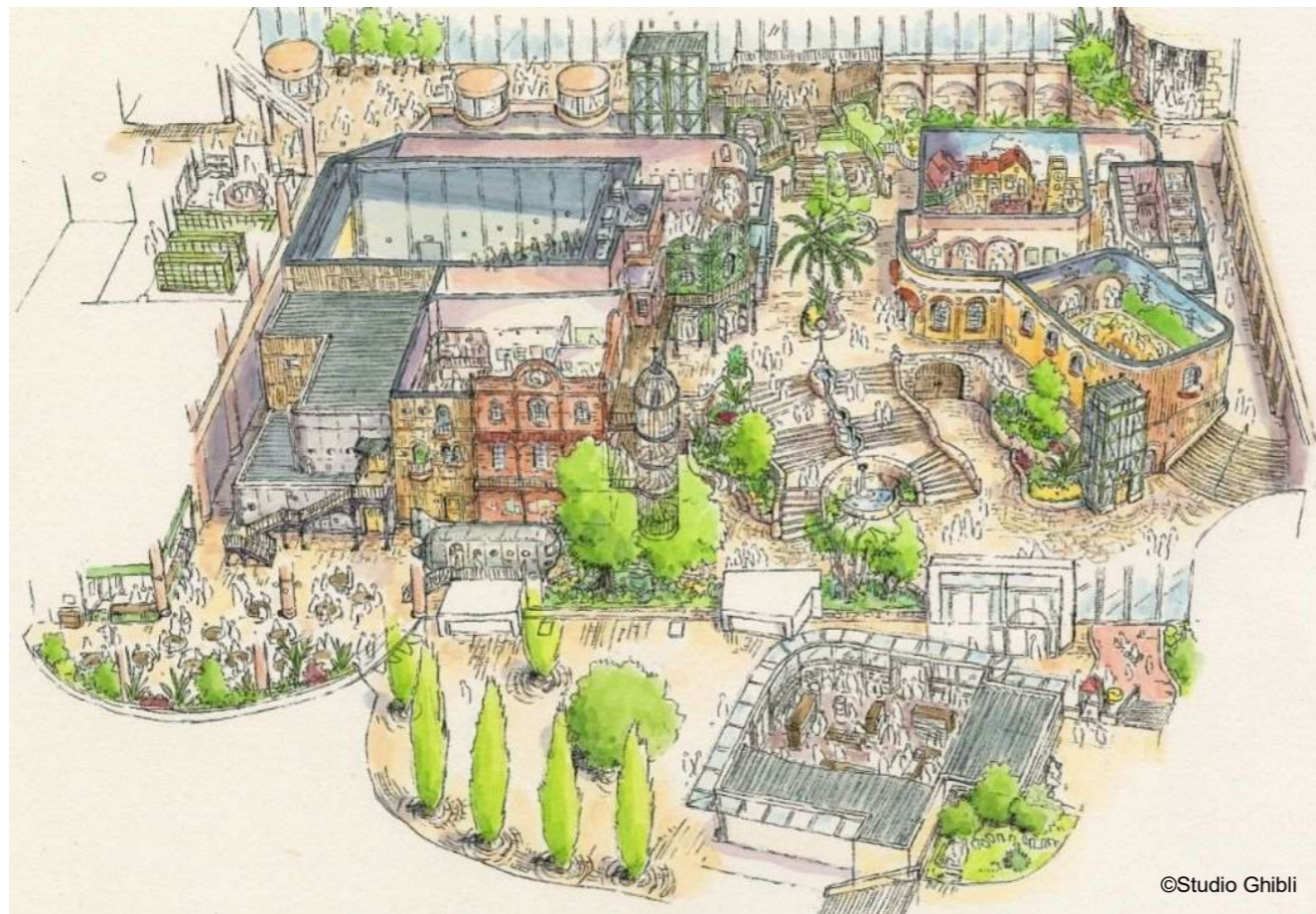


- エレベーター棟
19世紀末の空想科学を整備イメージとし、「エレベーター棟」の改装、足元の広場を改修します。
- 地球屋
平成初めの住宅地を整備イメージとし、映画『耳をすませば』の「地球屋」、ロータリーのある広場等を整備します。



ジブリの大倉庫エリア

～ジブリ作品等の保管・保存、展示遊びと憩の空間～



「倉庫」らしさと懐かしさを感じる和洋折衷の建築空間を整備イメージとし、常設展示室、企画展示室、映像展示室、遊び場、売店と喫茶、収蔵施設等を整備します。

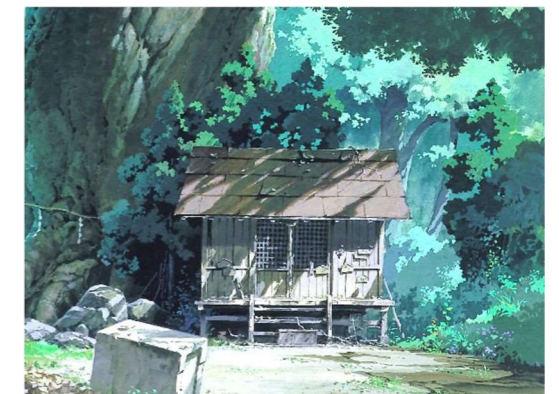


どんどこ森エリア

～「サツキとメイの家」と自然空間～



映画『となりのトトロ』の「サツキとメイの家」を中心とした昭和の田園景観を整備イメージとし、既存の「サツキとメイの家」に加え、社と散策路等を整備します。



映画『となりのトトロ』の一場面

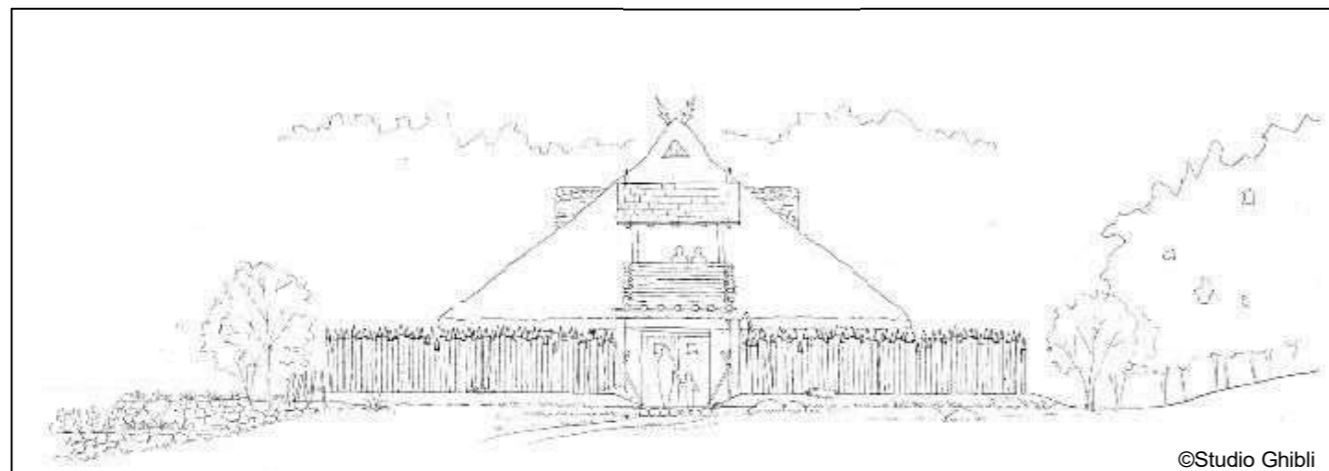
©Studio Ghibli

もののけの里エリア

～あいちサトラボと一体となった体験の場～

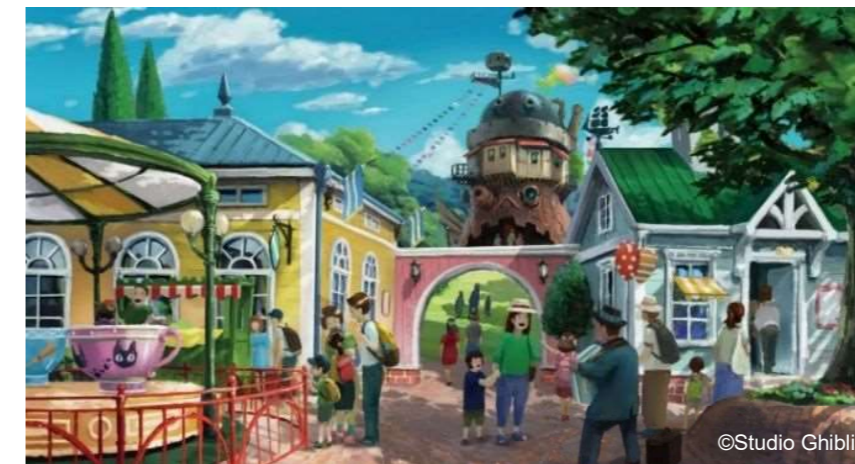


映画『もののけ姫』のエミシの村とタタラ場をもとにした和風な里山的風景を整備イメージとし、「タタラ場(体験学習施設)」、「炭焼き小屋」、休憩処等を整備します。

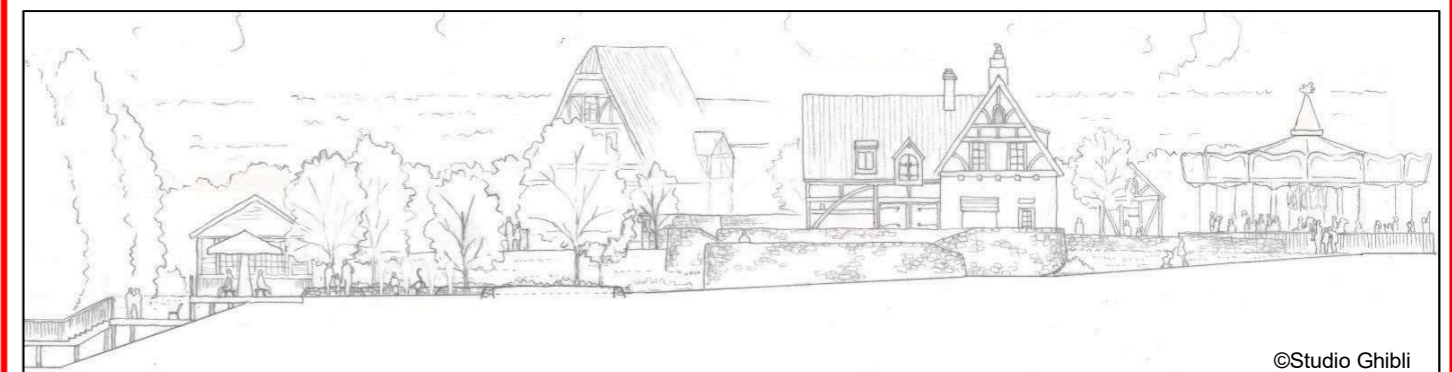


魔女の谷エリア

～ジブリ作品の体験を通した展示と遊び、休憩等の複合的空間～



映画『魔女の宅急便』、『ハウルの動く城』などの北ヨーロッパ風の空間を整備イメージとし、「オキノ邸」と庭園、「ハウルの城」と荒地、休憩・レストラン棟等を整備します。



基本合意書

愛知県（以下「甲」という。）、株式会社スタジオジブリ（以下「乙」という。）及び株式会社中日新聞社（以下「丙」という。）は、甲が管理する愛・地球博記念公園（以下「本公園」という。）内において、乙が制作したアニメーション作品のモチーフや世界観などに基づく公園施設「ジブリパーク」（以下「ジブリパーク」という。）の整備並びに管理運営（以下「本事業」という。）について、以下の事項を相互に合意するとともに、その実現に向けて連携・協力して誠実に取り組むこととする。

1 目的

甲、乙及び丙は、本公園内にジブリパークを整備する目的が以下のとおりであることを相互に確認し、その達成に向け協力する。

- (1) 「自然の叡智」をテーマとし、人、いきもの、地球に対する「愛」を示した愛知万博の理念と成果を本公園において継承していくこと。
- (2) スタジオジブリ作品の世界観を表現し伝え残していく公園施設として整備し、公園そのものと有機的に結びつくことで、唯一無二の価値を本公園に付与すること。
- (3) 子供から大人まで、愛知県民のみならず広く国内外からの来園者に楽しんでもらえる公園とすること。
- (4) 本公園の歴史や成り立ち、県民の思いなどに配慮し、将来の長きにわたり、愛知県民をはじめとした多くの人たちに愛され、後世に引き継がれていく場となること。
- (5) 都市公園としての機能、自然環境への影響などを考慮し、公園内に根付いている活動と共存した整備を行うこと。

2 整備範囲

ジブリパークの整備エリアは、「青春の丘エリア」、「ジブリの大倉庫エリア」、「もののけの里エリア」、「魔女の谷エリア」及び「どんどこ森エリア」の5つのエリアとする。

3 開業目標

整備範囲のうち、「青春の丘エリア」、「ジブリの大倉庫エリア」及び「どんどこ森エリア」は2022年秋の開業を、また、残るエリアは概ねその1年後の開業を目指すものとする。

4 役割分担等

- (1) 甲は、事業主体としてジブリパークに必要な整備を行うものとする。
- (2) 乙は、ジブリパークの整備に必要なデザイン等を作成するとともに、本事業全体の企画監修を行うものとする。
- (3) 丙は、ジブリパークの管理運営を行うことを目的とする新たな会社（以下「運営会社」という。）を乙と共同して設立するものとする。
- (4) 前項の運営会社がジブリパークの管理運営を行うにあたり、甲は運営会社に対して管理運営に必要となる行政上の許認可手続きを関係法令に基づき行うものとし、乙は展示制作等について必要な協力を行うものとする。

5 その他

甲、乙及び丙は、今後、本事業の詳細について協議を進めるものとし、本書に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度、甲、乙及び丙が誠意をもって協議の上、決定するものとする。

本書締結の証として本書3通を作成し、甲、乙及び丙が記名押印の上、各1通を保有する。

令和元年5月31日

甲 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
愛知県
代表者 愛知県知事 大村 秀章

乙 東京都小金井市梶野町一丁目4番25号
株式会社スタジオジブリ
代表取締役社長 中島 清文

丙 愛知県名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
株式会社中日新聞社
代表取締役社長 大島 宇一郎